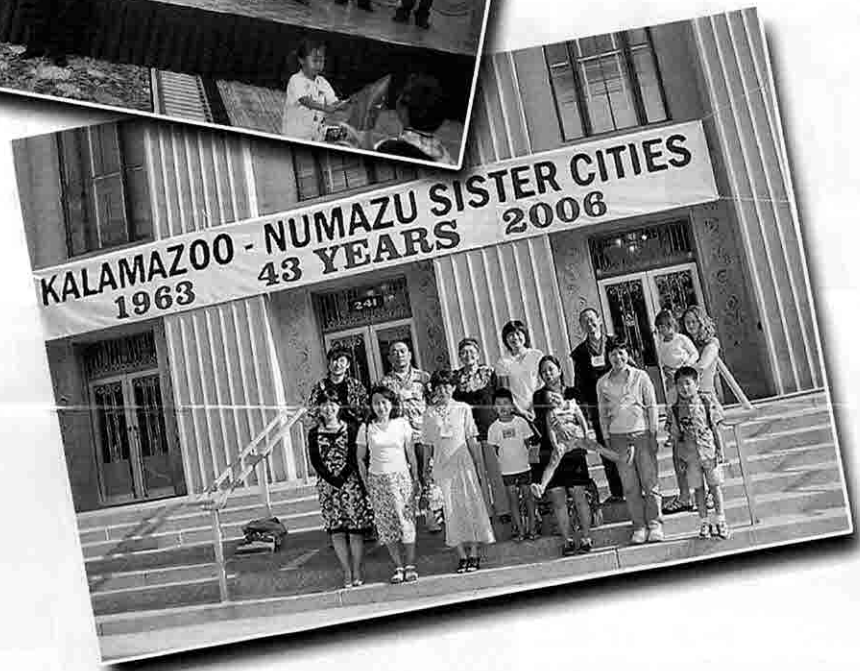


#NICE

Numazu association for International Communications & Exchanges

59
Vol. ~~58~~

発行日 2006年10月31日
発行者 NICE 沼津国際交流協会
(企画広報部会)
所在地 沼津市御幸町16番1号
(事務局) 沼津市役所地域づくり推進課国際交流室内
☎055-934-4717



**誰もが参加できる
楽しい国際交流を!**

ふれあい部会

“また会う日まで…ベトナム青年招へい事業”

あの優しさ・笑顔は今でも忘れることができません！

9月11日(月)～19日(火)の9日間、青年招へい事業でベトナム青年（中小企業）26名が来沼しました。

歓迎会、沼津工業団地・商工会議所などでの研修、陶芸体験、武道体験、手もみ茶体験、市長表敬、青年会議所メンバーとの意見交換会や、滞在中のハイライトとなる一般家庭でのホームステイと盛りだくさんのスケジュールをこなし、有意義な9日間を過ごすことができました。

沼津国際交流協会がアセアン青年受け入れ事業を始めて20回目にして初めて第一希望が受け入れられ勝ち取った“ベトナム青年”！ 迎いのバスの中で、ベトナム青年の来沼を心待ちにしていたこと、これまでの沼津受け入れの経緯を話したところ、ウェーブに似た大拍手が沸き起こり、一気に緊張の糸が解きほぐれ、歌まで飛び出しました。この瞬間に早くも今回の受け入れの成功を確信しました。彼らの顔を見るまでは、政治体制の異なる国からの青年受け入れに大きな不安もあったのですが…。あっという間に宿泊先の東急ホテルへ着きました。



明るく素敵なベトナム青年、それは…“ベトナム勉強会”の講師トウン君の説明の時にも感じたことでした。

10月27日の評価会&閉講式に出席して驚きました!! 評価点が非常に高かったのです。そして彼らの私たちを見る目が、全てを物語っていました。

これも、皆様方が彼らに温かく接してくださり、また多くの方々のご協力のおかげだと感謝しております。

本当にありがとうございました。



♪とても楽しいホームステイでした♪

『ベトナム青年ウーさんとの3日間』

永尾ひとみ(ホストファミリー)

大きな瞳を輝かせ、不安や研修疲れもあっただろうに臆することもなく、明るい強ささえ感じる第一印象でした。

ベトナム語の本で早速ページをめくりながらの会話でしたが、夕方家の近くを散歩し茶畑や牧場などを見て、たくさん喋って、写真を撮っていました。家では昼間幼稚園の教材で使った残りの数珠玉で娘と首飾りを作っていましたが、手先が器用なのか慣れているのか、あっという間の早さでおどろいてしまいました。

食事も興味を持って食べてくれましたが、背の高い人なのに小食でしたが、夜、夫が帰ってくるなり、酒の話で男同士前からの友人のように盛り上がっていました。

2日目は、園芸がしたいと言うので、知人の所で植木いじりをし、家でも豆を植木鉢に蒔きました。今、豆はすくすく育っていて良い置き土産となりました。

3日目、昨夜飲み過ぎて二日酔いの彼と夫を連れ御殿場の馬術大会の会場の隅で無料の乗馬体験をしました。初めてだったかもしれませんが、恐れもせず楽しんでくれました。その日朝晴れていたのに海へ行き海辺からの富士を見たのに、御殿場は小雨がぱらつく天気でした。乗馬をして私たちにもたくさんの笑顔を見せてくれ楽しく過ごしました。

送別会をして一週間後すぎの帰国直前、電話をくれました。言っていることはわからなかったけど、気持ちは皆に伝わったからね！ 特に子ども達が別れを惜んでいたのも、その電話に子どももとても喜んでいました。私もとても感激しましたが、息子が一番感激し涙ぐんでいました。



『2人のベトナム青年』

下山 光悦(ホストファミリー)

タンさんとフクさん2人を前にしたとき、きっと彼らは英語ができないだろうかと予想していたものの、実際通じたのは2、3の単語だけ。きっと十分な英語教育を受けることが出来なかった時代の青年だと思いました。多難な歴史を経た民族の哀しみを感じたものです。

2人をうなぎのランチに誘い、箱根神社、彫刻の森の美術館に案内し、夜はカクテルバーに出かけました。なんと…お客さんの中にベトナム語の出来るハノイに駐在した経験のある人がいてびっくり！ きっと2人には特別な夜になったことでしょう。

100円ショップでのみやげの買い物にも付き合いました。沼津に住んでいるベトナムの友人が、東急のパーティに出席でき大変喜んでいました。民間労働者である彼らには、日本で初めてのベトナム人を含めた公のパーティになったことでしょう。

ホストファミリーを引き受け多くの勉強をさせていただきました。



カラマズー訪問記

沼津市民カラマズー訪問団に参加して 『カラマズー訪問記』

海瀬 映子

旅の初日は緊張する。ぎりぎりまで仕事をし、出発の朝を迎えた。集合場所の沼津駅北口広場には、市立高生、見送りの家族などたくさんの人々がすでに集まっていた。

海外旅行には、行ったことがあるが、ホームステイは今回初体験である。NICEから紹介されたホストファミリーには、何度かeメールを送ったが、返事はまだきていない。同行のカラマズー初体験の青元さんは、6回もメール交換していると聞くとさらに不安は募る。今回は一人旅ではないし、何とかなるだろうと、心を落ち着かせる。こんな不安な気持ちは、市立高生の保護者の方も同じようで、顔見知りの私を見つけ、「よろしくお願ひします。」とご挨拶を受ける。

成田空港へのバス、シカゴまでの飛行機ともに順調に行くが、何と出発前、大金先生が一番心配されていた、シカゴオヘヤ空港でアクシデントは起きた。1時間20分で「入国手続き、通関、乗り継ぎ」を如何に乗り切るか鈴木団長中心にがんばっているところへ、何と天候不良で、シカゴ・カラマズー間の飛行機がキャンセルとなったと言う知らせが届く。ほどなく、旅行社の手配で、急遽バスでカラマズーまで向かうこ

とになるが、手配のバスを待つ間、誰からともなく「バスで良かったよね。これ、飛行機だと絶対に間に合わなかったよね」と、ほっとした会話が続く。

12時50分、バスでカラマズーへ出発。現地時間18時30分カラマズー空港に着くまで、今までの疲れがどっと出たのか、爆睡することになる。

この間、迎える側のカラマズーの方々は、きっと大変だったと思う。連絡が取れず、何度も空港に足を運んだ方もいたと聞く。

バスの到着と同時に、待ち焦がれていたホストファミリーと対面し、ほどなく、それぞれの車に乗って散っていった。

私のホストマザーのジュリー・イルズマさんにも空港で会うことができ一安心した。時間も遅くなっていたため、空港から、農家の納屋を改造した素敵なレストランへと案内してもらう。そこで、ご主人のポールさんと会う。2人に温かく接していただき、今までの不安も吹き飛んだ。イルズマさんのお宅は、カラマズー市内から車で30分ほど離れたクリケット湖に面した、平屋のお宅。ここには、夏の間だけ住んで、冬になると市内にある街の家に移るといふ。室内はきれいに整頓され、くつろぎの空間をつくっている。コンピューターは見当たらず、電話さえ、携帯しか持たないという徹底ぶりである。

翌朝、湖から昇る日の出を見ながらコーヒーをいただく。湖面を渡ってくる風は爽やかだ。周りに人は住んでいるのであるが、とにかく静



カラマズー部会

かである。

日曜日、5歳の孫のAIDANくんの誕生会がこの家で行われた。ジュリーさんは、豆のサラダなどを作った。ポールさんは、鶏肉と海老を器用に串に刺し、ガレージからバーベキューコンロを出しガレージの前で、焼き始めた。どうやら、台所が汚れる油は家の中では使わないようだ。バースデーケーキは、母親が手作製を持参。これが変わっていて、青い長方形のケーキで、トッピングのメインは、息子愛用の使い込んで塗装の剥げたミニカー2台である。

ごく親しい家族が集まって、孫の誕生日を、誕生日の歌を歌って祝う。日本と変わらないお誕生日の風景だった。プレゼントが一人一人から手渡される。サッカーシューズ、野球セット、自転車、どれもスポーツ用品ばかりだ。日本では必ずあるテレビゲームのソフトが出てこない。外でスポーツをさせたいという大人たちの意思が明確に現れたプレゼントである。また、いただく側の躰もしっかりしていた。「おじいちゃん、おばあちゃんに、ありがとうと言いなさい」と、母親は、何度も繰り返していた。AIDANがゲップをするとすぐ、「失礼と言いなさい」と母の声がかかった。日本より躰は厳しいなと感じた。

パーティの後、庭先につないであるモーターボートで湖に出た。日本だと、車でドライブに出かけるという感覚だろうか。湖面を渡る風が、大変気持ち良かった。ホームステイ先のお宅で、半日以上過ごしたのは、この日以外なかった。

カラマズー市内の観光は、市民が誇りに思っている施設、病院、図書館、パイプオルガンのある教会へ、公共交通機関を使って、案内してくださった。沼津市の出身ではないが現地の大学院の学生である廣瀬真紀さんが通訳として同行してくださった。パイプオルガンの裏側など、

どの施設も普段見ることのできないところを見ることができ興味津々であった。

市外へは、現地のスタッフの方がレンタカーを自ら運転して案内してくださった。マイヤーガーデンにしても、グリーンフィールドヴィレッジにしても日本で考えると、びっくりするくらい遠い所に案内してくださったと思う。特に、グリーンフィールドヴィレッジでは、ボブさんにお世話になった。私たち、日本人だけでは何となく見学してしまうであろう所も、ポイントを押さえて説明していただいた。ここに来たら、ここを見てほしい。そんな思いが良く伝わってきた。

市役所前で渡された協会からのプレゼントもなかなかのものだった。「Tシャツ、歯磨きセット、日本までの切手を貼ったはがき、ボールペン、ナプキン…」こまごまとしたものが入っていた。こまやかな心遣いを感じた。

私の一番の旅の目的であるカラマズー・沼津の姉妹都市の行事の一環として出会い、今は音信不通となっている、ペンフレンド『スーザン・バン・ゾイレン』と再会することはできなかったけれども、姉妹都市カラマズーの皆さんの温かい心に触れることができる旅だった。国際交流協会が長年積み上げてきたものがあつたからこそ、初めての私をこんなに温かく迎えてくださったのであるということが良くわかった。



★イヤーエンドパーティーへのお誘い★

- と き 12月2日(土) 18時00分～20時30分
- と ころ サンフロントホール(9F)
- 内 容 ポットラックディナー、バンド演奏、仮装コンテスト(コンテスト参加希望者は仮装をしてご来場ください)
- 参 加 費 1,000円(中高生500円、小学生以下は無料)
- 持 ち 物 当日夕食になるものを参加人数分お持ち寄り下さい
- 申込方法 事務局へお電話下さい

国際理解教育部会

国際交流サロン

～ミャンマーのお国紹介講座～

7月2日(日)沼津図書館に於いてミャンマーのお国紹介講座が開かれました。講師は、ミャンマー出身で「ふじの国親善大使」のグワランさんとニンピインピューさんのお二人でした。静岡市から沼津までわざわざ来ていただきました。

グワランさんは日本の生活にも慣れ、静岡での学生生活を楽しみながら将来は事業を興したいという希望をもってがんばっています。もの静かで礼儀正しいお二人、母国ミャンマーについてその確かな語り口で、話し始めました。

仏教国ミャンマー

ミャンマーはタイ、ラオス、中国、バングラデシュと境を接し、人口は5,200万人、農業が最大の産業で首都はヤンゴンです。ビルマといわれていたころは、ラングーンで記憶していました。

グワランさんからは、母国が世間で報道されているような怖いイメージの国ではなく、安全な国であること、仏教国であり、日に三度は仏様を拝む生活で、慈悲の精神と礼儀を重んじることは日本人と相通じるとの説明がありました。ミャンマーの国民性は日本人と似ているように感じました。

仏教国ミャンマーでは、義務教育制度がないためお坊さんの役割は大きく、先生として子供の教育者になっているようです。十分な教育を受けられない子供たちにとって、ミャンマーのお寺は日本の寺子屋のような学ぶ場所なのでしょう。経済学を学ぶグワランさんは、母国ミャンマーの発展を祈る想いで見守っておられました。日本での勉学が母国への活躍の足掛りとなればと夢見て、努力している様子がよくわかりました。

素朴な国民性、文化

仏教遺跡で有名なバカンのパゴタは日本人の心を引き付けることと思います。また伝統工芸の漆器を手にとると、その作品の素朴さに魅了されるでしょう。田舎町は、今の日本人が忘れた風景や人情に、きっと触れることができると思います。グワランさんが語るように、観光

も工業も発展途上ではありますが、ミャンマーは竹山道雄の書いた小説「ビルマの竖琴」に描かれている人情に厚い素朴な心を持った人々が住む国なのです。

ミャンマーでは隣接する中国、インドからの影響が強いため、食文化も多彩で主食は米でカレーの類をかけます。また米の粉から作るソーメンをよく食べます。

お水祭りは一年の汚れを洗い流すため、人々が街に繰り出して水を掛け合うお正月の欠かせない行事です。お水祭りの踊りは、派手な動きではありませんが、ゆったりした中にも軽妙な手の表現、軽やかなステップが見られ、ミャンマーらしさを感じとることができました。

講演終了後は、受講した60余名の参加者からの感動と感謝の拍手が鳴り止みませんでした。

来春には大学院に進むグワランさん、日本語の習得に励むニンピインピューさんに今一度、感謝の気持ちを持って拍手をしたいと思います。

日本で、静岡で、未来に向かってがんばってください。



岳陽部会

岳陽部会 活動アラカルト

『中国語中級クラスをふり返って』

伊海 崇仁(受講生)

私にとって中級クラス受講は、とても有意義なものでした。最も大きな理由は、「良き出逢い」に恵まれたからです。

2年間仕事で中国に駐在していました。ですから、帰国してからも何か中国との関わりを持つことができないかと考えていました。

そんな折に、この中国語講座を知り申し込みましたが、特に良かった出逢いは3つありました。

まず、中国語の師との出逢いです。講師の林先生はキレイで優しく、日本語もとても上手で、さらに、いつも笑顔でわかりやすく教えてくれました。

次に、中国語を学ぶ友との出逢いです。私の受講したのが中級ということもあり、一緒に学ぶ方々が熱心で、同じ中国語上達という目標を持つ受講生から良い刺激を受けました。

3つ目が、岳陽部会との出逢いです。この中級クラスを受講したことがきっかけとなりまして、この会の存在を知りました。前述のとおり、何らかの中国との関わりを持ち、中国語も学びたいと考えていた私には、まさに求めていた会と言えます。

今後個人的にも中国語の学習に益々励み、良き師、良き友、良き会での学びを楽しんでいきます。そして、人や国、文化と触れ合うことを続けていくことを望んでいます。

そのきっかけを与えてもらった、この中級クラスの講座に心から感謝しています。



▲ 3人の講師の先生方

湖南理工学院への短期公費留学生
浅田春子さんからメールが届きました。

『おはようございます。』

日本は涼しくなりましたか。

こちらはかなり蒸し暑く昨日は夏のようにクーラーを入れていました。

授業にも慣れて来ました。[雰囲気慣れてきました。言語は不明白です…]

先生方はとても素敵で良くして下さいます。中でも太極拳の先生は格好良くて校内一のハンサムではないかと思えます。私は覚えが悪いので手取り足取り教えて下さいます。河合さんが羨ましがっています。今日は初めての国画の授業があります。墨で絵を描くようです。ワクワクしています。

それではまた、皆様に宜しくお伝えくださいませ。
(浅田)

岳陽市教育研修生が来沼しました。

陳志成さん(湖南民族職業学院英語教師)と王斯培さん(岳陽市対外友好協会会員)のおふたりは9月1日～11月29日までの90日間、沼津市に滞在し沼津市立高校にて研修されます。また、市内の小中学校にて国際理解授業を行っています。開北小学校と原小学校ですすでに授業が行われました。パソコンを使って岳陽市の写真やアニメーションの紹介などを行っています。子供たちに人気だったのは、中国の遊び(おにごっこ)、研修生と生徒と一緒に実演し、皆ニコニコ。

給食終了後、研修生はサイン攻めになっていました。

今後も市民向けの「岳陽講座」の開催や国際交流協会の各イベントに参加と忙しい毎日を送ります。



沼津夏祭り“四季彩々”に参加しました。

例年行われている沼津夏祭りが、7月29日(土)大勢の声援の中で開催されました。

“全員集合！みんな参加して～”と、掛け声は掛けられたものの…人数が集まらなく…トホホ…在住外国人の人たちの参加もなく、毎回7～8人で練習を続けていました。

当日まで、はらはらドキドキしましたが、他部会の協力のお陰で、当日は多くの方々に参加していただきました。

あの華やかな衣装や外国の人たちと踊れば、踊りなんてどうでもいい。間違っても一緒に歩くだけで、国際交流のPRになっている。

沿道からは“サイコウ!!”と力強い声援をいただきました。感謝感謝！



沼津国際交流協会(NICE)
平成 18 年度第 2 回 国際交流サロン

International Cooking Salon

トルコのクッキングサロン

日時：平成 18 年 12 月 10 日(日) 10:00～14:00
場所：金岡地区センター(沼津市江原町 3-1)
師：小宮山ハミエットさん(トルコ出身)
内容：トルコ料理の調理と試食
豆入ピラフ、レンズ豆のスープ、
にんじんサラダ、ヨーグルトケーキ、
ヨーグルトドリンク、紅茶、香巻 (予定)

定員：20 人(先着順)
参加費：2,000 円/人
申込方法：11/8(水)より受付開始、事務局に参加費を待受
(月～金、8:30～17:15)

※小さなお子さんの参加はご遠慮ください。(託児はありません) ※申込後のキャンセルはできませんのでご了承ください。

問合せ：沼津国際交流協会(NICE)事務局 〒410-8601 沼津市御幸町 16-1 沼津市役所 1F 国際交流室内
TEL (055)934-4717 FAX (055)934-2582

信物霧下
そば **安田屋**

本店 ☎962-1127
大手町店 ☎951-4676

松井泰樹税理士事務所

〒410-0817 沼津市本郷町9-12

TEL055-931-6335 FAX055-933-1574

杉原総合保険

三井住友海上火災保険㈱ 代理店
三井住友海上きらめき生命保険㈱

杉原勢津子

〒410-0306 沼津市大塚329-1
TEL 966-0319 FAX 966-0389

総合人材サービス

SANKO 三幸興業株式会社

www.sankokogyo.co.jp

沼津本社/沼津市柳町1-50 SANKOビル
沼津・御殿場・富士・静岡・藤枝・掛川・浜松・トヨタ・東富士

看板・ネオン電飾・展示装飾・店舗改装・プラスチック加工

有限会社 **やまと看板**

取締役社長 長 沢 芳 明

沼津市本字千本 1910-112

☎(055)962-1612(代表) FAX 962-1613

Ange Village
アンジェ・ヴィラージュ

BOUQUET TOKAI

ブケ東海 沼津

〒410-0053 静岡県沼津市寿町 7-37

TEL 055-922-5522 FAX 055-922-5525

http://www.bouquet.co.jp/numazu/